

企業の社会的責任 (CSR)

社会全体の持続的な発展への貢献を目指して

現在、地球温暖化や人口の急増、先進国における少子高齢化の進行等、現代社会は様々な課題に直面しています。社会の持続的な発展に向けて、当社グループはこれらの課題解決に向けたグローバル金融グループとしての役割を自らに問いかけ、実践していくことが当社グループの社会的責任 (CSR) と考えています。

CSRの基本方針

SMFGは、CSRの位置付けを明確にし、効果的に推進していくために、CSRの定義とCSRにおける共通理念である「ビジネス・エシックス」を定めています。

なお、CSRへの取組を強化するため、グループ全体のCSR活動に関する事項を協議する「CSR委員会」を設置し、企画部内に「CSR室」を設置しています。またCSRの基本方針として定めた「CSRの定義」および「取り組むべき重点課題」に基づき、CSR活動を推進しています。

➡ 「ビジネス・エシックス」については、以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/smfgcsr/>

SMFGにおけるCSRの定義

事業を遂行する中で、①お客さま、②株主・市場、③社会・環境、④従業員に、より高い価値を提供することを通じて、社会全体の持続的な発展に貢献していくことと定義しています。

SMFGとして取り組むべき重点課題(マテリアリティ)

ステークホルダーからの要請に応え、社会課題の解決に貢献していくために、「環境」、「次世代」、「コミュニティ」の3テーマを中長期的な重点課題(マテリアリティ)として取り組んでいます。

国内外のイニシアチブへの賛同

SMFGは、グローバル社会の一員として、金融機関の持つ社会的影響力を踏まえ、国内外のイニシアチブ(企業活動の行動指針・原則)に賛同しています。

➡ 賛同しているイニシアチブについては、以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/smfgcsr/structure/>

重点課題 (マテリアリティ)

環境	次世代	コミュニティ
<p>2030年を目途としたありたい姿 持続可能な社会の実現に向け、すべての人々の暮らしの礎となる地球環境の保全に取り組む金融グループ</p>	<p>2030年を目途としたありたい姿 活力溢れる未来の実現に向け、すべての人々の能力向上、特に金融リテラシーの普及および定着を牽引する金融グループ</p>	<p>2030年を目途としたありたい姿 誰もが参画できるコミュニティの実現に向け、すべての人々へ安心・安全を提供する金融グループ</p>
<p>取り組むべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">環境ビジネスの推進環境リスクへの対応環境負荷軽減への対応	<p>取り組むべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">成長産業分野への支援新興国における社会課題の解決への取組あらゆる世代に向けた金融リテラシー教育の推進	<p>取り組むべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">安心・安全なコミュニティ実現・発展への貢献NGO/NPOとの連携による社会包摂の推進大規模災害による被災地の復興支援

環境

基本的な考え方

SMFGは、環境問題を重要な経営課題のひとつと認識し、「グループ環境方針」に基づいて地球環境の保全と企業活動の調和に取り組んでいます。

➔ 「グループ環境方針」については、以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.smfg.co.jp/responsibility/environment/management/>

ISO14001を基盤とした環境マネジメントシステム(EMS)

三井住友銀行は、1998年に邦銀として初めてISO14001*の認証を取得しました。現在は、持株会社の三井住友フィナンシャルグループを登録事業者とし、主要なグループ会社8社で、同認証を取得しています。



ISO14001認証取得

* 環境マネジメントシステムの国際規格

活動の3つの柱

SMFGでは、「環境負荷軽減」「環境リスク対応」「環境ビジネス」の3つを環境配慮行動の柱としており、各行動についての環境目標を設定し、PDCAサイクルにしたがって計画的に環境活動に取り組んでいます。

環境負荷軽減

SMFGでは電力等のエネルギー使用量削減について毎年度目標を設定し、積極的に取り組んでいるほか、2016年度からは、環境データに関する第三者保証を取得しました。そのほか、三井住友銀行では通帳のウェブ化や融資書類の電子化、三井住友カードでは支払明細書の電子化を通じた環境負荷軽減につながる取組も推進しており、その取組の一環として、2017年4月には、三井住友銀行の銀座支店をリニューアルし、複合施設GINZA SIX内に各種手続のペーパーレス化を実現した次世代型の店舗をオープンしました。



リニューアルした銀座支店

環境リスク対応

三井住友銀行では、与信業務の普遍的かつ基本的な理念・指針・規範等を明示した「クレジットポリシー」の中で、与信環境リスクを明記しています。また、大規模な開発プロジェクトへのファイナンスにおける環境社会リスク管理に関する民間金融機関の枠組みである「エクエーター原則」を採用し、環境社会リスク評価を行っています。



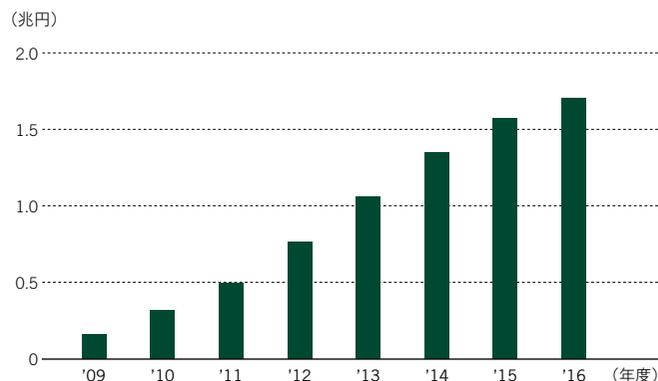
環境ビジネス

SMFGでは、環境ビジネスを本業を通じた地球環境の維持・改善に貢献するための取組と位置付けています。たとえば、新興国における環境インフラ整備案件や、再生可能エネルギーに関する案件のサポート等、各社が連携して業態に応じた支援を実施しています。また、環境投資の促進という観点では、グリーンボンドの発行やエコファンド等の販売を推進しています。お客さまに向けた情報発信としては、環境情報誌「SAFE」の発行や、環境展示会「エコプロ展」への出展を通じて、様々な情報提供に努めています。



再生可能エネルギー活用支援

環境配慮等評価型融資／私募債取組実績*



* 取組を開始してから2016年度末までの累計

企業の社会的責任 (CSR)

次世代

基本的な考え方

SMFGは、金融機能を最大限に活かし、次世代を担う産業・人材の育成や金融リテラシーの向上、新興国における健全な経済成長のための市場整備に貢献します。私たちの持つ金融機能や金融知識を活用し、次の世代もいきいきと活躍できる社会の実現に貢献していきます。

金融リテラシーの向上

SMFGでは、グループ各社が一体となった金融経済教育の取組に加え、それぞれの業態に応じた活動を実施しています。たとえば、三井住友銀行・SMBC日興証券の各支店での職場見学の受け入れや、SMBCコンシューマーファイナンスの「お客様サービスプラザ」での学生・社会人を対象とした金融経済教育セミナーをはじめ、2016年度はグループ全体で約13万名へ金融経済教育やキャリア教育を実施しました。

そのほか、小学生向け書籍「銀行のひみつ」や、第10回キッズデザイン賞「優秀賞 消費者担当大臣賞」を受賞した、子ども向け環境情報誌「JUNIOR SAFE」の発刊、親子で収支管理を学ぶ、おこづかい帳アプリ「ハロまね」、お仕事体験タウン「キッザニア」への協賛、中学生向けの経済教育プログラム「ファイナンスパーク」への協力等、各種教材の提供や施設への出展を通じた金融リテラシー教育を行っています。



福島県いわき市と協働した
キャリア教育「いわき志塾」



夏休みに実施する小学生の銀行業務体験



子ども向け環境情報誌
「JUNIOR SAFE」



キッザニアにおける銀行業務体験

アジアでの現地課題に即した取組

2015年3月、三井住友銀行とインドネシア三井住友銀行は、インドネシアの大手企業グループDjarum Group傘下の財団、Djarum Foundationと、インドネシアにおけるCSR活動の推進に関する覚書を締結しました。教育分野での貢献として、各種職業訓練学校に訓練機器を寄贈しました。

また、2015年7月、三井住友銀行はミャンマーにおける小中学校教員研修プログラムに関する覚書を日本企業として初めて日本ユニセフ協会と締結しました。同プログラムを通じ、同国の発展に貢献していきます。



最新の航海シミュレーターによる訓練



ミャンマーでの教育支援活動の様子

グローバルでの人材育成

三井住友銀行国際協力財団は、新興国の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的に、アジアから日本の大学院へ進学した留学生に対して奨学金を



留学生による研究発表会の様子

支給しています。また、新興国の経済発展に資する活動を行う研究機関・研究者への助成も行っています。

米国を本拠とするSMBC GLOBAL FOUNDATIONは、1994年よりアジア各国で学ぶ6,000名以上の大学生に奨学金を支給しています。また、ニューヨーク市ハーレムの高校が主催する日本研修旅行の支援、学校の美化活動への三井住友銀行従業員によるボランティア参加、同従業員が行う寄付に対して、財団からも同額の寄付等を実施しています。

コミュニティ

基本的な考え方

SMFGでは、日常業務を通じた社会への貢献に加え、豊かな社会を実現するための「良き企業市民」として、社会的責任を果たすべく様々な社会貢献活動を行っています。

高齢者、認知症、障がい者の方への対応

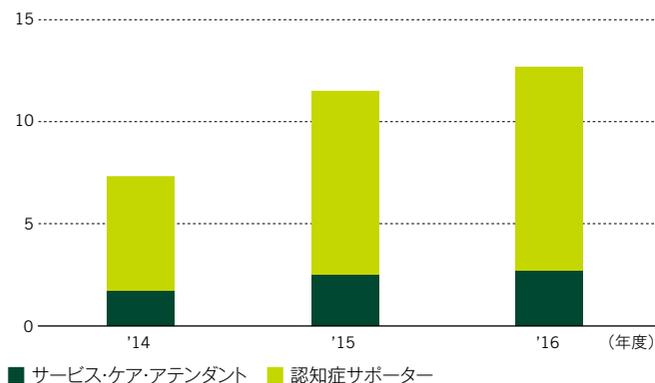
SMFGでは、2017年3月末までに約10,000名の認知症サポーターを育成しました。そのほか、三井住友銀行ではサービス・ケア・アテンダントの資格取得も推進しており、高齢者や障がい者の方も安心してご利用いただける店舗づくりを進めています。



認知症サポーター養成講座の様子

従業員による資格取得状況

(千人)



NPO等と連携した社会的な課題の解決

三井住友銀行では、有志役職員の給与から天引きする積立募金に約10,000名が加入しており、2016年度は、国内外で社会課題の解決に取り組む34団体への寄付を実施し、グループ役職員とその家族延べ約430名が参加しました。

グループ各社でも多数の役職員がボランティア基金に加入し、福祉や環境活動への寄付活動を行っています。

また、SMFGでは従業員が参加できるボランティア活動プログラムを実施しているほか、従業員の知識や保有スキルを活用したプロボノ活動「SMFGプロボノ・プロジェクト」を実施しました。



従業員のスキルを活用したプロボノ活動

寄付先・活動支援先事例

国内：子育て支援活動、児童虐待防止活動、障がいのある方の自立支援、環境教育活動等

海外：タイやカンボジアにおける植林活動支援、ベトナムやフィリピン、南アフリカにおける学校教育支援等

被災地支援への取組

2011年5月より、SMFGの従業員およびその家族による東日本大震災の被災地支援ボランティアを行っており、2016年度には従業員による熊本地震の被災地ボランティアも行いました。2017年3月末時点で、東北と熊本のボランティア活動には延べ1,000名を超える役職員とその家族が参加しています。



被災地でのボランティア活動